

今年、灯台150周年です

現在、全国にある灯台の始まりは、明治の初めに導入された洋式灯台にさかのぼります。

江戸末期、英・米・仏・蘭の4か国が、関門海峡を舞台に長州藩と戦った下関戦争の賠償の一環として、開港した各港への灯台の設置を約束させ、1番目に建設された灯台が、神奈川県横須賀市にある観音埼灯台です。

明治元年11月1日に、この観音埼灯台の建設を着手しており、この年を基点として、平成30年は、灯台の近代化150周年にあたります。

対馬の主な灯台

灯台150周年にあたり、対馬に設置されている主な灯台を毎月順番にご紹介します。

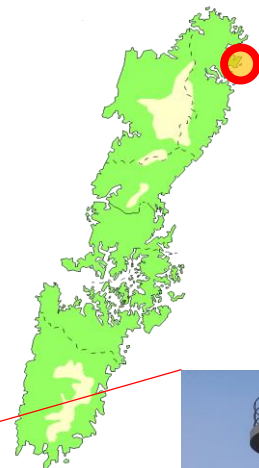
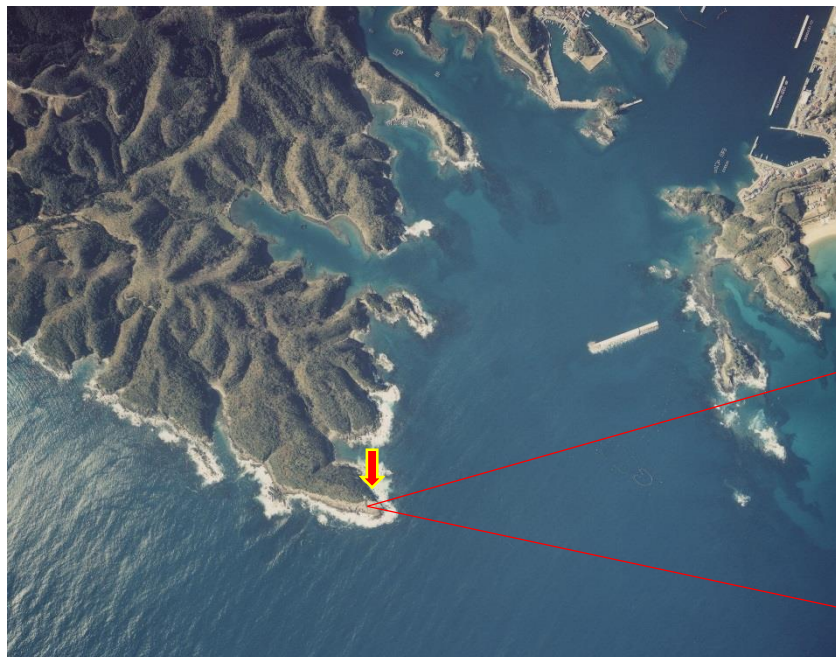
じょうどのさき

その12 尉殿埼灯台

尉殿埼灯台は、上対馬町の海の玄関口である比田勝港の入口示し、船舶の重要な役割を果たしている灯台です。

比田勝港雷埼灯台、西泊湾導灯とともに、通航船の安全を見守っています。

尉 殿 埼 灯 台
(長崎県対馬市上対馬町)





LED灯器

白熱電球からLED灯器に換装 (H24.1)
 光の強さ：390カンデラ
 光の届く距離：約14キロメートル



旧尉殿埼灯台

老朽化により建替 (H22.1)

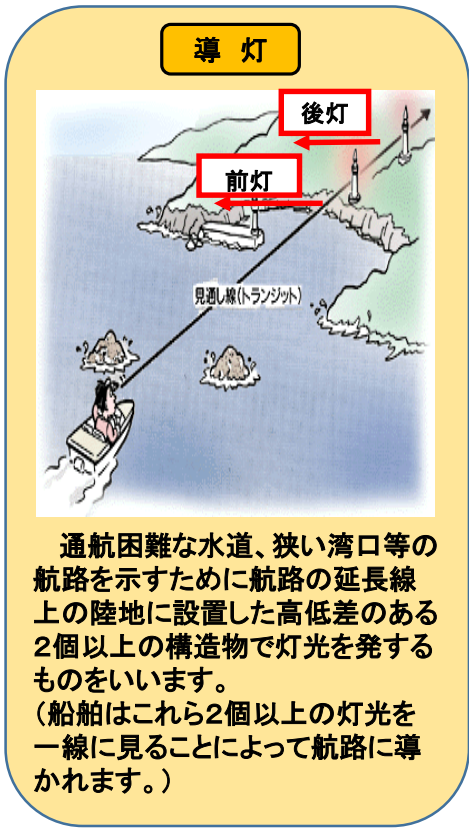


【参考】
 対馬市立比田勝中学校の校歌には、『玄海の波 逆まきて 尉殿岬の巖かむ 不屈の心 いやまさる おお比田勝 力はあふるる ああ我ら』と詠われています。



比田勝港

比田勝港雷埼灯台



通航困難な水道、狭い湾口等の航路を示すために航路の延長線上の陸地に設置した高低差のある2個以上の構造物で灯光を発するものをいいます。
 (船舶はこれら2個以上の灯光を一線に見ることによって航路に導かれます。)



前灯

後灯

西泊湾導灯

比田勝港雷埼灯台